

1. はじめに

印西地区環境整備事業組合（以下「貴組合」という。）では、昭和61年度に稼動した現中間処理施設（以下「印西クリーンセンター」という。）の老朽化に伴い次期中間処理施設の整備事業を鋭意進められております。その一環として、次期中間処理施設の建設候補地を選定するための「印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業用地検討委員会（以下「用地検討委員会」という。）を設置され審議を進められてきました。その経緯と内容を以下に整理するとともに、残された課題を記述いたします。

2. 経緯

2.1 用地検討委員会のこれまでの経緯

「用地検討委員会」は、「応募のあった土地」、「現在地」を加えた5候補地に対して、これまでの審議を進められてきた経緯を表-1に示します。この表に示しますように(1)17回に及ぶ会議(2)パブリックコメントの募集(3)先進地視察(4)意見交換会(5)現地調査(6)最終答申書と多岐に及ぶ審議事項について闊達な意見、提案に基づいて審議が進められ、最終答申書を取り纏められました。最終答申書を受けて、建設候補地選定会議(管理者・副管理者会議)を行い、現地確認建設候補地検討に関する報告会がなされ候補地が「吉田地区」に決定されました。そして「次期中間処理施設整備事業の施行に関する協定書」を締結され、吉田地区の地権者の方を対象に説明会を実施され、現在に至っていると理解しております。

表-1 用地検討委員会の経緯

検討委員会	開催日時等
(1) 17回に及ぶ会議	平成25年4月～平成26年9月(17回)
(2) パブリックコメントの募集	平成25年11月～平成25年12月13日
(3) 先進地視察	平成26年3月13日
(4) 意見交換会(周辺住民・全体)	平成26年6月7日～平成26年7月27日
(5) 意見交換会(委員間)	平成26年9月9日
(6) 現地調査(2回)	平成26年4月20日、平成26年9月7日
(6) 最終答申書	平成26年9月30日
建設候補地選定会議 (管理者・副管理者会議)	開催日時等
(1) 現地調査	平成26年10月29日
(2) 3回の選定会議	平成26年11月14日、25日、28日
報告会	開催日時等
建設候補地に関する報告会	平成26年12月21日
基本協定調印式	開催日時等
「吉田地区」と「貴組合」の双方による次期中間処理施設整備事業の施行に関する協定書調印式	平成27年3月3日
地権者説明会	開催日時等
吉田地区の地権者の方へ説明会	平成27年3月7日

2.2 ごみ処理基本計画策定経緯

用地検討委員会とは別に印西地区3市町では、表-2に示す検討委員会による、「印西地区ごみ処理基本計画」(以下「ごみ処理基本計画」という。)を平成26年3月に策定されました。

ごみ処理基本計画では、可能な限り“ごみ”の発生を抑制し、再利用できるものは利用するとして、さらに処理する過程で回収できるエネルギーは最大限有効に利用していく「循環型社会の形成」を基本理念とし、本検討委員会で審議されている次期中間処理施設整備事業を推進するための基本方針を定められています。

表-2 ごみ処理基本計画検討委員会

開催日	検討概要
第1回 平成26年4月21日	委員会スケジュールについて 過去のごみ処理実績について
第2回 平成26年5月19日	・環境画の点検 評価について ・人口予測について
施設研修 平成26年7月21日	・ふじみ衛生プラザ施設見学
第3回 平成26年7月21日	・人口推計について ・印西地区の概要について ・ごみの排出量の予測と目標値 ・アンケート調査について
第4回 平成26年8月8日	・ごみの排出量及び処理処分量の目標について ・ごみ減量施策について ・次期中間処理施設整備事業の基本方針について他
第5回 平成26年10月20日	・ごみ減量施策及びアンケート結果について ・次期中間処理施設整備事業の基本方針について他
第6回 平成26年12月1日	・次期中間処理施設整備事業の基本方針について他 ・印西地区ごみ処理基本計画(案)について他
第7回 平成27年3月9日	・パブリックコメントの結果について ・印西地区ごみ処理基本計画(案)、(答申)について

3. 用地検討委員会の審議

3.1 用地条件と候補地

用地条件は、表-3 に示す条件とし、この条件に適合することとしています。その結果、「岩戸地区」、「滝地区」、「武西地区」、「吉田地区」、「現在地」の5地区が候補地の対象となりました。

表-3 用地条件

用地条件
・面積25ha程度
・洪水浸水地域を除外すること。
・自然公園法で規定する地域を除外すること。
・その他として、施設の建設運営に著しく不適又は困難な土地を除外すること

3.2 建設予定選定方法

5地区の候補地に対して、一次審査で用地条件に適合しているか現地調査で確認後、表-4 に示す大項目、小項目を比較評価項目として小項目毎に比較評価基準・配点を設定し、二次審査、三次審査の評価点を加えた合計点で順位付けを行い、その結果「吉田地区」が総合順位1位となり候補地が選定されました。

表-4 比較評価項目

2次審査	
大項目	小項目
生活環境の保全	地域住民の日常生活への影響
	地域景観への影響
自然環境の保全	里地里山の保全
	生物多様性の保全
	地球温暖化防止
法規制	各種規制の状況
	用途地域の適合
地盤の安全性	液状化予測地域
	地形の状況

3次審査	
大項目	小項目
周辺住民の理解度・協力度	周辺住民の理解度・協力度の状況
経済性	概算事業費
地域社会貢献	地域活性化への寄与

4. 課題

候補地選定経緯を踏まえ、残された課題を以下に整理します。

4.1 中間処理施設整備基本条件

用地検討委員会において、中間処理施設の基本的な条件について検討されていません。熱回収施設としての発電規模を検討するためのごみ質（低位発熱量）等が検討されない中で、発電規模、公共施設への電力供給、災害時の電力供給等が議論されていますが、的確な議論が進まず、課題が残ったままだと考えられます。この理由は、施設整備計画（本業務が該当。）が先行できなかったためと判断します。本業務で施設基本条件の整理が必要と考えます。

4.2 施設規模

ごみ処理基本計画（平成21年3月）において減量化目標を挙げられていますが、にもかかわらず、平成21年度以降、印西地区の家庭系のごみ排出原単位は、ほぼ横ばい傾向です。同様に平成26年3月版においても「スリム25」をスローガンとしてごみ排出量の削減目標を掲げられていますが、削減目標値に対して具体的な施策による減量化量が示されていません。ごみの排出抑制は重要な事項ですが、再度、ごみ量の将来予測を行い、施設規模が今後のごみ量を適正に資源化・処理に対応した規模か検討が必要と考えます。また、検討委員会で、容器包装プラスチック類を熱回収施設で処理し蒸気回収を図る意見があり、プラスチック製容器包装類のサーマルリサイクルを行うのか、分別の徹底による資源化を行うのか、基本方針の設定が必要と考えます。